

2013年8月9日

各 位

DAIKYO 大京グループ

大阪ガス(株)主催の
『NEXT21 設計パートナー・コンペティション』で
大京チームが 404 住戸部門で最優秀作品賞を受賞

株式会社大京（本社：東京都渋谷区、社長：山口陽）は株式会社岩村アトリエ（本社：東京都目黒区、社長：岩村和夫）の協力を得て、大阪ガス株式会社（本社：大阪市中央区、社長：尾崎裕）が所有する実験集合住宅「NEXT21」（大阪市天王寺区）内の2住戸を対象に行われた、『NEXT21 設計パートナー・コンペティション』※に参加し、応募した「4G HOUSE」が8月6日（火）に行われた結果発表にて404住戸部門で、最優秀作品賞を受賞しましたのでお知らせいたします。

※本コンペの応募資格は関西で分譲マンション（ファミリータイプ）供給実績がある企業になります。NEXT21 改修住戸のコンペで、マンションデベロッパーを対象としたのは今回が初めてです。

■NEXT21 設計パートナー・コンペティションの概要

名 称：NEXT21 設計パートナー・コンペティション

主 催：大阪ガス株式会社

コンペ対象住戸：NEXT21 建物内の404住戸（81.51㎡）、501住戸（91.98㎡）の2住戸を対象

応募テーマ：高齢化や少子化は、家族そして家にとどのような影響を及ぼすのか。2020年の家族の一つのあり姿を想定し、彼ら、彼女らが住まう理想的な家を「404住戸」では求めます。
（一部抜粋）

応募資格：関西で分譲マンション（ファミリータイプ）供給実績がある企業

応募内容：404住戸、501住戸、両住戸設計の提案を1エントリーにつき1案ずつ（計2案）

表彰等：[最優秀作品賞] 各住戸1点 ・本プロジェクトのパートナーとして企画設計に参画

■NEXT21 とは

NEXT21 は、大阪ガスが所有する実験集合住宅のことです。1994年に居住実験を開始し、当初から環境との共生をテーマに、スケルトンインフィル方式などの建築システムや自然生態系の復元、エネルギーシステムに関する実験を大阪ガス社員家族が実際に住みながら検証する住宅です。

■実験集合住宅「NEXT21」の建物概要

所 在 地：大阪市天王寺区清水谷町6-16

用途地域：第2種中高層住居専用地域／準防火地域

構 造：地下1階～地上2階 鉄筋コンクリート造、
地上3階～地上6階 プレキャストコンクリート+鉄筋コンクリート複合構法

主要用途：共同住宅（総戸数18戸）

1994年から居住実験を実施

建築面積：896㎡

延床面積：4,577㎡



NEXT21 外観写真

■最優秀作品住戸 4G HOUSE のコンセプト

「4G HOUSE —4つの世代 (Generation)、4人の女性 (Girls) が暮らす住まい—」について
＜新しい世帯構造に対応した住まいのカタチ＞

当社は、これまで一般的な家族を対象にファミリータイプ・DINKS タイプといった住宅を主流として供給してきました。

しかし、家族の世帯構造は時代と共に少しずつ変化してきています。少子高齢化の進行や離婚率の増加などに伴って、単身世帯や2人世帯といった小規模な世帯が増加する一方で、経済的な面でも、日常生活の面でも、それらの世帯が単独では暮らしにくくなっており、この傾向は今後もより顕著になると考えられます。そこで「1つの世帯に1つの住まい」ではなく、少人数の世帯同士が集まり、お互いにサポートしながらも、各々が自立しいきいきと永く暮らせる新しい住まいのカタチをつくろうと考えました。様々な事情を持つ「祖母、母、私、娘」の4つの世代、4人の女性が、それぞれ自立した個人として、同時にお互いを支え合い、世代間を継ぐ住まい。それが私たちの提案する「4G HOUSE」です。

大きなダイニングテーブルを中心に据えた【みんなの部屋】の横に、【祖母の部屋】と【私と娘の部屋】を配置。【みんなの部屋】と【祖母の部屋】は井戸端コーナーにも開き、家族に加え訪れる人々とのコミュニケーション・スペースとしています。また独立した【母の部屋】には、トイレや浴室を近接させ、将来若干の改修の上、祖母の部屋と母の部屋を入れ替えることで、介護のしやすさにも対応します。さらに一坪の【ひとりの部屋】は、オープンな間取りの住まいだからこそ大切にしたい「ひとりの時間」を持つための空間になっています。

■審査員コメント 加茂 紀和子氏 [建築家/みかんぐみ/ICS カレッジオブアーツ特任教授]

女性同士の高齢者のシェアハウスは実践例も多い。ここに設定された4世代の女性 (GIRL) 達の住まいは現実感がありすぎて実験的ではないのではと指摘された程である。

真ん中のオープンキッチンカウンターは若干大きすぎるが、様々なことや人を受け入れる象徴的な意味とも思える。一方で「私」が一人になれるスペース、いつか「娘」が大きくなったときの個室にもなることも用意されていて抜けがない。実作にふさわしい。

(NEXT21 設計パートナー・コンペティションHPより抜粋)

■今後のスケジュール (予定)

2013年10月中旬まで 基本設計

2013年11月下旬まで 実施設計

2013年1月初旬から 着工

■株式会社岩村アトリエ(一級建築士事務所)について

所在地：東京都目黒区上目黒3丁目31番地5号

創立：1990年8月8日

代表取締役：岩村 和夫

《岩村 和夫プロフィール》

早稲田大学大学院理工学研究科建築工学専攻修士課程修了。工学修士。

岩村アトリエ代表取締役、早稲田大学大学院、東京工業大学等の講師を兼任するとともに、日本建築家協会副会長、日本建築学会理事等を経て、国際建築家連合 (UIA) 副会長。

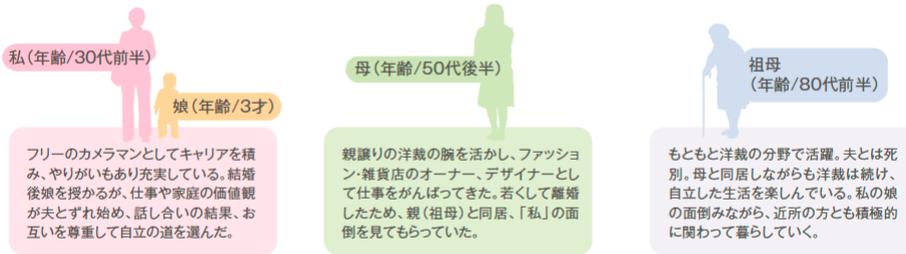
404住戸 4G HOUSE

4G HOUSEとは、4つの世代(Generation)、4人の女性(Girls)が暮らす住まいです

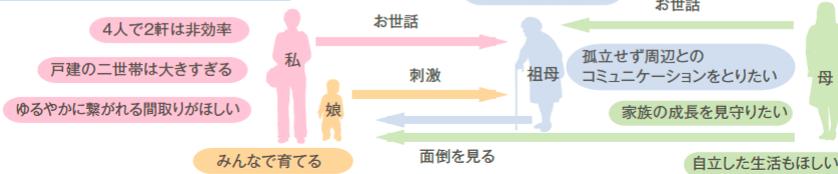
新しい世帯構造に対応した住まいのカたち

私たちは、これまで一般的な家族を対象にファミリータイプ・DINKSタイプといった住宅を主流として供給してきました。しかし家族の世帯構造は時代と共に少しずつ変化してきています。少子高齢化の進行や離婚率の増加などに伴って、単身世帯や2人世帯といった小規模な世帯が増加する一方で、経済的な面でも、日常生活の面でも、それらの世帯が単独では暮らしにくくなっており、この傾向は今後もより顕著になると考えられます。そこで「1つの世帯に1つの住まい」ではなく、少人数の世帯同士が集まり、お互いにサポートしながらも、各々が自立いきいきと長く暮らせる新しい住まいのカたちをつくりました。

4世代のそれぞれの事情



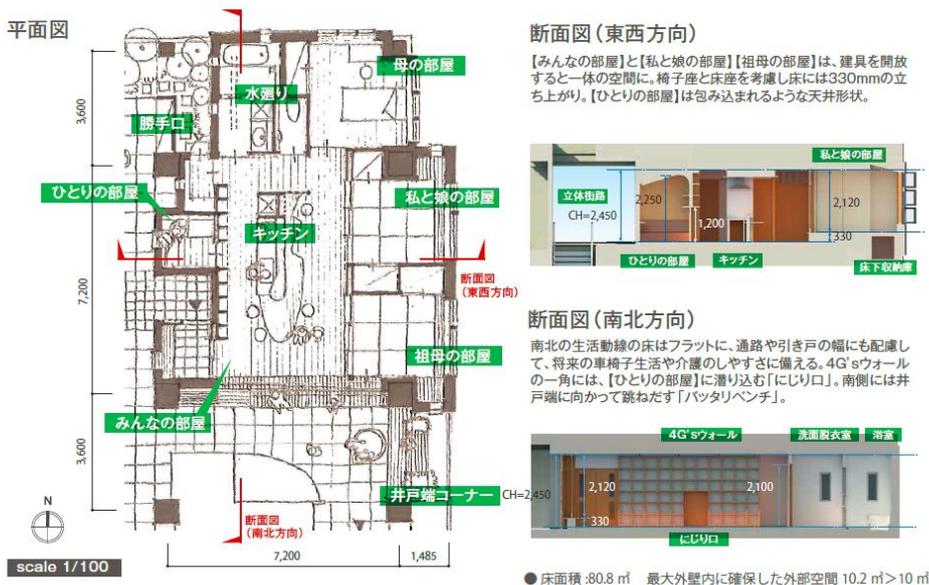
4G HOUSEを選んだ理由



4G HOUSEの概要

祖母、母、私と娘が、それぞれ自立した個人として、
同時にお互いを支え合い、世代間を継ぐ「住まい」

大きなダイニングテーブルを中心に据えた【みんなの部屋】の横に、【祖母の部屋】と【私と娘の部屋】を配置。【みんなの部屋】と【祖母の部屋】は井戸端コーナーにも開き、家族に加え訪れる人々とのコミュニケーション・スペースとしています。独立した【母の部屋】には、トイレや浴室を近接させ、将来若干の改修の上、祖母の部屋と母の部屋を入れ替えることで、介護のしやすさにも対応します。一坪の【ひとりの部屋】は、オープンな間取りの住まいだからこそ大切にしたい「ひとりの時間」を持つための空間になります。



1 みんなの部屋

大きなダイニングテーブルとキッチン、4人がめいめいに過ごしながら、お互いを感じる場所。建具を開けば、私と娘の部屋と祖母の部屋、さらには井戸端コーナーともつながり、まるで大きなリビングのよう。



2 4G's ウォール

みんなの部屋の4G'sウォールは、4人めいめいの趣味や好みものが並ぶ棚。見るだけで、その時々に関心があるのか、伝わってくる。



3 スタディコーナー

ダイニングテーブルの先みんなが利用するスタディコーナー。娘が宿題したり、母や私がパソコンで作業したり。一日中みんなを感じる事ができる工夫のひとつ。



4 ひとりの部屋

4G'sウォールのにじり口から入る隠し部屋。4人の時間を大切に我が家でも、一人の時間も大切。静かに仕事に集中したり読書したり音楽を楽しんだりする、小さなスペース。



2畳ほどの小さい部屋ですが、ゆっくり考え事をしたり集中して仕事をしたりする場所です。お茶室のように4G'sウォールの中に仕掛けてある「にじり口」が入るのが特徴。隠し部屋みたいで面白いですか？将来は納戸になっちゃうかもしれませんが、娘の部屋として使ってもいいかな、とも思っています。

「母の部屋」は「みんなの部屋」からは離れてしましますが、代わりに、トイレや浴室を近くに配置することにしました。これなら、将来祖母に介護が必要になった時に、少し改造し、母と入れ替わることで、トイレや入浴のお世話などもしやすくなります。

5 ダイニング・キッチン

リビングを兼ねたみんなが集まる場所。家事をしながら、食事をしながら、ダイニングを中心に自然に集うことができます。



井戸端コーナー

いろいろな人に訪れてもらって、私たちと一緒に楽しい時間を過ごせたらいいな、と考えた窓の空間です。大きな開口とちよつとしたベンチで訪れる人と談笑できるようになっています。雨戸がわりの建具には無双窓がついて開け閉めの調整ができるようになっています。

採風窓

開口部には、高断熱・高気密、かつウィンドキャッチャーの機能をもつ採風性の高い窓を設置。



9 母の部屋

祖母と常に顔を突き合わせているのに抵抗がある母は、祖母の部屋からちょっと離れて、独立した部屋で過ごしている。

6 無双格子とバツリベンチ

井戸端コーナーに面する開けたり閉じたりできる無双格子。視線や風通しを調整する。この雨戸がわりの建具と組合せたバツリベンチは、建具を開めるときには折りたたみ、開くときは引っ張り出す仕組み。



7 祖母の部屋

みんなの部屋とつながる個室。日中は建具を開け放ち、一つの部屋として広々と過ごしている。特に祖母の部屋は、井戸端コーナーともつながり、訪ねてくる人々といつもしゃべり、みんなの部屋につながる建具にはスリットがあり、建具を開けている間も風を通すことができる。

8 私と娘の部屋



■参考資料

NEXT 21 設計パートナー・コンペティション

<http://www.next21-partner.jp/>

◆このニュースリリースに関するお問い合わせ先◆
株式会社大京 広報室（今福、河守） TEL：03-3475-3802